

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8344
担当部課名	保健所	地域保健	課	成人保健企画 班
事務事業名	栄養改善事業費		事業コード	12210

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第2節	市民健康づくりの推進	12年度
施策名	第1施策	自ら行う健康づくり	

2 実施根拠及び関連法令等

栄養改善法 栄養改善法の施行に関する条例、栄養改善法の施行に関する条例施行規則
--

3 事業概要

(1) 事業の目的 地域において栄養改善思想の普及・推進を行っていくことを目的に、食生活改善を推進するボランティアの育成、外食や加工食品等の栄養成分表示の普及、集団給食施設への指導等を行う。	(2) 対象（誰、何） 一般市民、集団給食施設従事者、食生活改善推進団体わかな会等
	対象数
(3) 平成13年度事業の内容 1.食生活改善推進員養成講座 15回 2.集団給食施設指導事業 講習会4回・個別巡回指導 214施設 3.栄養成分表示推進事業 講習会17回 4.相模原市食生活改善推進団体わかな会の育成・支援 わかな会会員394名 定例会等38回 5.専門栄養指導 集団指導28回 個別指導 延204名 6.地域リーダー等の育成・支援 18回 歳出 賃金・報償費1,841千円 委託料248千円 その他経費 163千円 合計2,252千円 歳入 国庫補助金39千円 県補助金19千円	(4) 総合計画・実施計画における概要 健康づくりの意識の高揚 健康づくり関係団体の育成、支援
	(5) 個別計画の概要
	計画名 相模原市保健医療計画
	計画年次 14年度～22年度
	「地域に根ざした健康づくり」として「地域における栄養・食生活対策」があげられている。また、栄養・食生活分野の目標において、「栄養成分表示の普及」があげられている。

4 評価指標

指標名	集団給食施設指導事業個別巡回指導率	食生活改善推進員養成講座修了率
指標式	個別巡回指導数/巡回目標数(200件) × 100	修了数/定員数(50名) × 100
指標設定の意図	集団給食施設指導において有効性の高い個別指導の達成率を表す	食生活改善推進員養成講座の定員に対する修了数を表す

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度（評価対象年度）		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標		107	a 107	b 100	100
指標		96	c 94	d 95	100
指標			e	f	
事業費	決算（予算）額	2,961	2,252	2,353	2,522
	人員・時間数	2人(3600H)	2人(3600H)	2人(3600H)	2人(3600H)
	人件費	15,048	15,048	15,048	15,048
	その他経費	0	0	0	0
	合計	0	18,009	17,300	17,401
特定財源		0	58	0	0

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価	A : 達成している (100%) B : 一部達成していない(100%> 80%) C : 達成していない (80%>)	= 、 、 の平均値 = 103.0%
	$\frac{a}{b} = \frac{107.0}{100.0} \times 100 = 107.0\%$	$\frac{c}{d} = \frac{94.0}{95.0} \times 100 = 98.9\%$ $\frac{e}{f} \times 100 =$
理由 :	集団給食施設巡回指導、食生活改善推進員養成講座については現時点での目標を達成できている。	
(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価	A : 適応している B : 一部適応していない C : 適応していない	理由 : ライフスタイルが多様化し食生活が変化してきている中で、現在の食生活に適した形で栄養成分表示の普及やヘルシーメニュー等の増加などの環境整備や情報提供を行っていく必要がある。
(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価	A : 妥当である B : 一部妥当でない C : 妥当でない	理由 : 各種研修会、講習会等、参加者が多く、広く栄養改善思想の普及・推進を図ることができているため効率的である。
(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価	A : 代替の可能性ない B : 代替の可能性低い C : 代替の可能性高い	理由 : 現在も一部委託しているが、栄養表示普及講習会や、その他の栄養講習会等は、食生活改善推進団体わかana会や栄養士会を育成・支援していくことにより、代替していくことが可能である。
(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価	A : 満足できる B : 一部満足できない C : 満足できない	理由 : 食生活改善推進員養成講座においては、希望者が多く全員が受講できない状況である。また、外食の栄養成分表示は市民ニーズが高いが、実施できていない。
(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価	A : 有効である B : 一部有効である C : 有効でない	理由 : 市民の健康づくりを推進していく上で大いに有効である。

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある 説明 : 栄養表示普及や栄養教育等は、食生活改善推進団体わかana会や栄養士会を育成・支援していくことにより、より広く普及啓発していくことが可能である。</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある 説明 : 生活習慣病が増加している現状から、今後拡大していくことが必要であるため、経費をこれ以上圧縮することは困難である。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p>

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	神奈川地域の保健所は同様に事業を行っている。 外食栄養成分表示推進に関しては、東京都等が積極的に取り組んでいる。
今後の進め方			
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	食生活を取り巻く環境は変化が激しいため、現状に適した形で事業展開をしていく必要がある。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--